

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

327号

2018年5月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

新しい時代、統一時代が始まった ～分断の壁を崩した2018南北首脳会談・板門店宣言～

4月27日、史上3回目の南北首脳会談が板門店で開催された。金正恩国務委員長と文在寅大統領は、笑顔で軍事境界線で固い握手を交わした。和やかな雰囲気では会談は進み「朝鮮半島の平和と繁栄、統一のための板門店宣言」が発表された。宣言では、南北関係の画期的な改善・発展と朝鮮半島の戦争の危機の解消と恒久的で強固な平和体制構築のために休戦協定締結65年になる今年、終戦を宣言し、休戦協定を平和協定に転換し、南・北・米の3者または南・北・米・中の4者の会談を推進するとした。米国は早々に評価する声明を出し、史上初の朝米首脳会談の成功の可能性がより確実なものになった。

今回の南北首脳会談は、11年ぶりに開かれた首脳会談という意味を超え、朝鮮半島の平和と統一のための劇的で画期的な会談として歴史に記憶されるだろう。



▲板門店宣言に署名し、握手を交わす両首脳

●統一列車が走り出した

「板門店宣言」は、「6・15宣言」と「10・4宣言」の徹底的な履行を強調し、そのために南北当局者が常駐する共同連絡事務所を開城(ケソ)に設置することを明示した。金剛山観光をはじめ開城工業団地、南北間の鉄道(東海線・京義線)・道路の連結と整備、西海(黄海)を平和水域にし、安全な漁を保障するための対策など李明博、朴槿恵政権で中断していた事業が、これから一気に再開されることになった。

離散家族の再会が8月15日に実施されることも決定し、国際競技での共同出場も明記され、8月にジャカルタで開催されるアジア競技大会に南北共同チームで臨むことになった。

また、陸海空をはじめ全ての空間で相手方の敵対行為を全面中止するとし、5月1日から軍事境界線での拡声器の放送とチラシの散布などの敵対

行為を中止して、今後、非武装地帯を実質的な平和地帯にするとした。両首脳が板門店周辺を散策し、青い橋に設置されたベンチで約30分間談話する光景は感慨深いものがあった。緑生い茂る野鳥の声が聞こえる自然豊かな板門店。対決の象徴であった板門店が和解と平和の象徴になったことを強く印象づけるものであった。近い将来、板門店は平和公園となり、両首脳が座ったベンチは世界平和の観光スポットになるだろう。

「板門店宣言」には文大統領が秋にピョンヤンを訪問することも明記された。実現されれば1年に2回首脳会談が開かれることになる。伝統儀仗隊と行進中「青瓦台に来られれば、もっと良い場面をおみせすることができる」と話す文大統領に対して、金委員長は「招請してください」と即答したという。来年の春はソウルで首脳会談が開催されるだろう。

以降、毎年、春と秋に南北首脳会談が定例化される可能性が高い。統一時代の始まりだ。

南北首脳会談は全世界に生中継された。そして世界中の人々が歓迎し拍手を送った。首脳会談の当日、ソウルのピョンヤン冷麺店には長い行列ができた。世論調査でも10人中9人が南北首脳会談を評価した。北朝鮮の非核化の意志を信頼する(64.7%)が、信頼しない(28.3%)の倍以上になり、国民の対北認識が地殻変動的に変化している。

「板門店宣言」によって統一列車が走り出した。今後は「板門店宣言」を確実に実践し、列車の速度を上げていかなければならない。主役は私たち民衆だ。在日同胞も統一列車に乗り遅れることなく、統一時代をともに創っていかなければならない。(隆)

駐韓米軍の歴史と本質について学ぶ 韓統連生野支部学習会

韓統連生野支部が定期的に行っている学習会「シリーズ近現代史の断面③ 駐韓米軍とは何か～今こそ問われる、その歴史的本質～」が4月15日(日)、韓統連生野支部で開かれた。



▲駐韓米軍の歴史などについて報告する金昌範代表

学習会では、金昌範(キム・チャンボム)韓統連生野支部代表委員が講師を担い、金代表は初めに日帝植民地から祖国が解放された1945年8月以降、朝鮮半島の南側に駐韓米軍が駐留するに至った歴史を説明し、特に1950年7月に結ばれた「大田(テジヨン)協定」により、韓国軍の指揮権を米国に委譲したことについて「自国の軍隊の指揮権を他国に委譲したことは、重大な問題」と指摘した。

続いて、朝鮮戦争時に起こった老斤里(ノグンリ)民衆虐殺事件など、駐韓米軍が起こした数々の犯罪をあげながら「駐韓米軍は韓国民衆を守るのではなく、民衆を抑圧している」と述べるとともに、最近の駐韓米軍の役割として▲ソウル龍山(ヨンサン)米軍基地の平澤(ピョンテク)地域への移転、▲THAAD(サード)ミサイル発射台の星州(ソジウ)地域への配備など指摘しながら、「ソウルを防衛することから、中国・ロシアを見据え、北東アジアの要衛としての役割を担おうとしており、駐韓米軍の本質が変わろうとしている」と述べ、駐韓米軍を撤退させることは、北東アジアの平和にもつながるという認識を共有した。

報告後は活発な討論が行われ、学習会は終了した。

サムルノリなど多彩な演目などを通じ、 楽しい一時を過ごす 連帯フェスタ2018

韓統連大阪本部も実行委員会に参加している「RENTAIFESTA(連帯フェスタ2018) Family-1 一番大切なアナタへ(主催:同実行委員会)」が4月22日(日)、万博記念公園お祭り広場(大阪府吹田市)で開かれた。



▲連帯フェスタで韓青大阪府本部がサムルノリを披露

連帯フェスタでは最初に記念式典が行われ、続いて舞台では多彩な文化公演が行われた。まず初めに大阪朝鮮高級学校舞踊部による朝鮮舞踊、韓青大阪府本部のメンバーによるサムルノリが披露され、会場から温かい拍手が送られた。

次に、一般参加者の参加企画としてファンタスティックイージーによるフェットネスが行われ、一般参加者も軽く体を動かして汗を流し、川口真由美さんのミニライブでは、歌を通じ沖縄辺野古新基地建設反対を訴えるとともに、平和の大切さが訴えられた。

その後、子どもに好評のキャラクターショー、ワタナベフラワーによるライブステージと続き、メインゲストのDaiCEによるライブでは会場の雰囲気が高潮に達した。

会場ではビールにイカ焼き、フランクフルトに串カツなど多数の出店が並ぶとともに、子どもコーナーではフワフワドームやスーパーボールすくいなどが行われ、大人も子どもも楽しい一時をすごした。



「板門店宣言」を全的に支持・歓迎する統一マダン生野に！

第25回統一マダン生野実行委員長 高銖春 (コ・スチュン)

5月13日に開催される「第25回統一マダン生野」に向けて準備が進んでいます。今号のチャジュでは高銖春実行委員長にインタビューを行い、統一マダン生野の企画などについて紹介します。

Q：南北首脳会談が開かれた中、第25回統一マダン生野を迎える心境は？

A：実行委員会を立ち上げた昨年秋には想像もできなかった情勢の進展に正直、驚いています。情勢の変化によって、開催趣旨文を書き換えるようになるとは想像すらできませんでした。

南北首脳会談直後に開催される統一マダン生野だけあって、注目度も高くなっています。また期待も高くなっていることは肌で感じます。それだけに統一マダン生野に参加してくださる方々の想いにそぐわないよう、しっかりと準備していかないと考えています。今年は、参加してくださる方々が現在の情勢を感じられるよう新しい企画をたくさん準備しました。

Q：今年の主な企画と進行状況を教えてください。

A：今年は13年ぶりに韓国・大邱から民衆歌手グループのソリタレが来阪します。2000年の南北首脳会談後、初めて統一マダン生野でコンサートをしたグループです。ソリタレは在日同胞に対する情も厚く、一時期は日本語だけで公演してくれたこともありました。今年、3回目の南北首脳会談後の情勢の中、どのような舞台を繰り広げてくれるのか楽しみです。また南北の和解情勢を肌で感じられるような企画も準備しています。

そして、なんとといっても今年の統一マダン生野は「世界一」を目指します。世界中で私たちほど祖国の統一を願っている人はいませんし、私たち以上に東アジアの平和を願っている人はいません。世界一の想いを持っている私たちが、記録として世界記録を目指す企画も用意しています。もちろん、子どもたちが楽しめるコーナーも「一日中楽しめる」をコンセプトに例年以上に準備しました。特にいつの時代も大人気のスーパーヒーローショーを準備しています。ご期待ください。

Q：実行委員会の雰囲気はどうか？若い世代が頑張っているようですか？

A：今年は20人以上が実行委員として参加してくれています。中でも20～30代の青年・学生が約3分の2を占めており、これまでになく若い年齢層の実行委員会となりました。

若い世代は経験が乏しかったり、荒削りだったりしますが、彼らの発想力は豊富で楽しいです。その豊富な発想力で様々な面で助けられています。成功・失敗にかかわらず、一生懸命に考え、それを

企画書として提案し、実現に向けて努力する。そんな過程を通じて何か学んでもらえればと思っています。

四半世紀となる25年目を迎える統一マダン生野を「例年通りにしない」ことが私の決意でした。若い世代と既成世代とがうまく交わることで、統一マダン

生野はさらに発展していっています。当日、まだまだ発展していく統一マダン生野を感じて頂ければと思います。

Q：25周年を迎える統一マダン生野の実行委員長として、読者の皆さんにアピールして下さい。

A：統一マダン生野は多くの同胞と日本の皆さんに支えられて25周年を迎えました。その間、いい情勢も、厳しい情勢もありました。しかし、統一マダン生野は一貫して祖国の自主的平和統一を実現しようという想いを発信してきました。その変わらない声が現在の南北融和の情勢を作り出す一翼を担ったと自負しています。

今年は南北首脳会談、そして「板門店宣言」を全的に支持・歓迎する想いを多くの人々と分かちあう場となります。そして、南北の和解情勢を支える声を集める場となります。祖国の自主的平和統一を願う在日同胞の皆さん！東アジアの平和を願う日本の皆さん！統一マダン生野から世界に向けて声を発信していきましょう！



▲高銖春実行委員長

濟州島4・3事件70周年

遺族らは望む、真相究明と米軍政庁の責任追求

李 鐵(イ・チョル)

4月27日、歴史的な南北首脳会談が板門店で開かれました。分断を克服し、戦争の危機を取り除くための会談は世界が注目する中で行われました。南北首脳会談南側準備委員会が「平和・新たな始まり」と名づけた会談は「板門店宣言」を発表して成功裏に終了しました。両首脳は共同会見で「朝鮮半島ではもう戦争は起きない」と世界に約束しました。

しかし、70年前の濟州島では、左派勢力の抑圧のために本土から送り込まれた軍警と西北青年団などの右翼団体などによる島民への暴圧と、朝鮮半島南部だけの「単独選挙」に反対するための武装蜂起がきっかけとなって、3万人(当時の濟州島の人口は28万人余り)の島民が犠牲となる凄惨な事態が起きました。

第2次世界大戦が枢軸国(独・伊・日)の敗戦で終結しましたが、朝鮮半島は北緯38度線を境に北はソ連軍(当時)が、南は米軍がそれぞれ占領し分割統治が実施されました。日本と朝鮮半島南部はマッカーサー米軍総司令官の施政下に置かれました。つまり1948年4月当時の38度線以南は米軍の統治下であって、家族の誰かが、あるいは全員が犠牲となり多くの被害を発生させた濟州島4・3事件に関して米軍政庁の責任は免れません。

日本の植民地であった朝鮮からは多くの朝鮮人が労働力として日本へ渡航しました。とりわけ1938年4月1日に施行された「国家総動員法」を法的根拠に強制的に動員されるケースも多く、濟州島からも多くの島民が日本に来ていました。大阪南部の紡績工場や中部の大阪砲兵工廠、各地の建設現場、線路敷設工事などに動員され、家族で移住する者も多かったのですが、解放後、多くが島へ帰りました。

島へ帰ってまもなく起こった悲劇で、その多くが住居を追われ、生活の術を奪われ、住民の絆さえも奪われました。村の多くが焼き尽くされ、飼っていた馬が逃げ遅れて焼け死ぬことさえあったといえます。そんな難を逃れて日本にいる親戚・知人を頼って日本へ再度逃げ戻る道を選んだ人も多かったのですが、正確な数は分かりません。このことが大阪と東京で「在日本濟州島4・3慰霊祭」が行われている理由です。

しかし、ながらく事件について話すことは島民には許されませんでした。「暴徒」「アカ」などとなじられ、国家による民間人虐殺は隠蔽されたまま公にされることはありませんでした。犠牲者の多くは女性・子ども・老人などで、殺される理由さえも知らないまま死んで行った人の魂は癒されず、その遺族は家族

の酷い亡骸を埋めることさえ許されませんでした。島民は犠牲者の名誉回復と国家による謝罪を求め、盧武鉉大統領が就任して初めて国家的謝罪と賠償などを定めた「4・3特別法」が制定されましたが、今年70周年の節目の年に更なる真相究明と米国の謝罪を求める声が高まり、同法の改定案が国会に提出されました。

ヤン・ユンギョン遺族会会長は「濟州4・3第70周年汎国民委員会旗揚げ式(2017年4月8日 ソウル市議会会館)」で次のように語っています。「大悲劇、絶対的加害者と国と背後勢力である米国は厚顔無恥だ、濟州4・3の徹底した真相究明と共に国と米国の責任を堂々と問い、名誉を必ず回復する。この間、成したことは微々たる物で心苦しい、今日4・3の道を継承し、未解決の課題を解決するために・・・」。

今年、ヤン会長はソウル光化門通りにある駐韓米国大使館前で濟州4・3の謝罪を求めて座り込み行動を行いました。濟州島4・3は未だ進行形の事件です。



▲駐韓米国大使館前で座り込みをする
ヤン・ユンギョン会長(写真中央)

【コラム】

韓国の度量衡

「度量衡」という言葉がある。度は「ものさし」であり長さ、量は「ます」であり容積、衡は「はかり」であり質量を意味する。長さや面積などを測る単位を総じて指す言葉であり、測る道具や基準、転じて制度や法律を指すこともある。

ものを測る単位は人々が共有すべき認識であり、これらを統一して定めることは社会や国家において重要となる。何せ単位がなければ租税を集めることもままならない。ゆえに中国の秦の始皇帝が、全土を秦の統治のもとにまとめ上げるため、各国でバラバラだった単位制度を一つに定めた話は有名だ。こうした度量衡の管理は、秦より先の周王朝でも国家統治の基本事業とされ、中国神話でも舜帝の業績として数えられている。ある意味、国家法制の根幹とも言えるものだろう。

我が国においては古代に中国の度量衡を受容しつつ、自国の都合に適宜合わせ、寸(치)、尺(척)、合(합)、升(되、승)、斗(말、두)、斤(근)などの単位を用いてきた。ただし、時代によって、または地域によって、その大小が異なり、史料の制限から当時の単位の正確な長さ・かさ・重さはおおよその推定でしか知りえない。

三国時代、重さでは斤(約250g)、かさでは升(約0.2リットル)を用いていたが、長さでは漢尺(約23cm)、唐大尺(約29.7cm)、高句麗尺(約35.6cm)など多様な単位を用いていたとされる。高麗時代もこれらの度量衡を継承したが、尺(約31cm)、升(約0.34リットル)、斤(約630g)など前代に比して若干大きくなったとされている。

朝鮮時代に入り第4代国王の世宗(セジョン)は、新たな度量衡を制定した。その詳細は朝鮮初期の法典である『経国大典』に記されている。長さでは、1丈=10尺=100寸=1000分、1尺

(34.5cm、黄鍾尺)を基準に周尺(約20.6cm)、营造尺(約30.8cm)などが定められた。かさでは1斗(約6リットル)=10升=100合=1000勺、15斗が小斛(平石)、20斗が大斛(全石)。重さでは1両(約40g)=10銭=100分=1000釐、16両が1斤とした。

朝鮮王朝は度量衡の管理を重要視し、地方官の監察を担った暗行御史は、駅馬を徴発するための馬牌とともに、度量衡の不正不備が無いかを確か



▲暗行御史の鎡尺

める真鍮製の鎡尺と呼ばれる定規を携えていたという。

しかし、長い歴史の中で各地の運用に大きな差が見られるようになってしまい、一つの地域の中ですら度量衡が統一されない実情が現れる。朝鮮後期の実学者である丁若鏞(チョン・ギョソ)は『応旨論農政疏』で「万斗千斛は、人の顔のように遠くからなら同じく見えます

が、実際に確かめると全て異なっています。都と地方で異なり、隣村同士でも異なり、一つの邑内で官斗、市斗、里斗が別々に存在しています」と記し、農政において不正が横行していることを訴えている。

近代に至り、これらの単位がメートル法に換算され整備されていくようになる。1902年には平式院を設立し度量衡規則が定められ、白金原器が制作された。1909年の度量衡法で日本の尺貫法が導入されることになるが、解放後に従来の尺斤の単位が改めて制定された。

現在はメートル法が基本であり、公的に尺斤法を用いることはないが、民間においてはまだ多くの場で習慣的に用いているようだ。それによれば1尺は約30.3cm、1合は約180ml、1斤は600gとなる。(好)

第25回統一マダン生野チャレンジ企画 朝鮮半島平和統一へ！思いはひとつ、空に向かって！ クラウドファンディングへのご協力を

アンニョンハセヨ！韓青大阪本部の高愛子（コ・エツヤ）です。

この度、第25回統一マダン生野でクラウドファンディングで資金を集め、ギネス記録に挑戦するという企画をすることになりましたので紹介させていただきます。

クラウドファンディングとは、インターネットを通じてたくさんの人々に資金提供を呼びかける資金調達の仕組みです。

この企画を考え、実行委員会の会議でプレゼンテーションをするまで多くの時間を費やしました。これまで統一マダン生野に参加はしていましたが、決まっていることをこなすだけで、誰かの指示のもとで動き、自主的に考え行動することなく終えていました。しかし、今回クラウドファンディングの担当者になった時に「みんなが納得できて、周りを巻き込んでできる企画を考えて成功させたい」と強く感じました。

統一マダン生野には、もう15回以上参加していますが、参加する度に「あの空間は同胞がひとつになっていて、団体の垣根を越えた民族の和合がそこにはある」と強く感じます。

「その感動的なひとつになっている空間を、このマダンだけで終わらせたくない。もっと多くの場所に発信したい」と思いました。

そこでこの統一マダン生野に、より多くの人が集まって、日本だけでなく世界中にこんなにも多くの在日同胞が祖国統一を願っているんだという

思いを形にしたいと考えたのが、ギネス記録に挑戦するというものでした。その企画というのは、統一マダン生野に615人以上の人々を集めて、集まった方達それぞれの統一への思いを込めて大空に向けてナプキンを一斉に同時に投げるというチャレンジ企画です。ナプキンを大空に投げるといのは、喜びを現す行為だそうです。

記憶に新しい、平昌オリンピックでの南北選手団の開会式での合同入場や、女子アイスホッケーの「チーム코리아」の奮闘など、感動的で、確実に統一に向かって行っていると確信できました。

そして、4月27日には2018南北首脳会談が開催され、在日同胞社会でも統一の風が吹いていると実感できました。

統一マダン生野まで、残り数日です。多くの方々にご支援を頂くことにより、企画を成功させる事ができるのはもちろん、ご支援頂いた方々の思いもこの企画で共有する事ができます。

生野の地から、世界中に在日同胞の統一のへ思いを届けるためにも、クラウドファンディングを成功させ、ギネス記録挑戦企画も成功させ、第25回統一マダン生野を多くの人たちと共に喜びと感動で溢れる場所にしたいと思います。ご協力、よろしく申し上げます。

※協力方法は、下記のホームページをご覧ください

<https://readyfor.jp/projects/madan513>



▲昨年の統一マダン生野で
統一旗を持って喜びを表現する参加者

編集後記

第25回統一マダン生野は、南北首脳会談及び「板門店宣言」を支持・歓迎する統一マダンになります。皆さん、ぜひ参加して頂き、この喜びを分かち合ひましょう。

(ソン)